Since 1921 ハリオの品質は長い歴史が培ったものです。

「写真：日本理化学硝子躍動百五十年史」
木下義夫著　提供

柴田弘製作所カタログ
「ヒロム印硝子濾過器」表紙

1921 年10月	東京・神田須田町に柴田弘製作所を創立。理化学用硝子器具の製造・販売を開始する。
1940 年 8月	台東区上野花園町に工場及びガラスるつぼ炉建設。ガラス溶融の研究に着手。
1947 年 3月	ヒロム印ビーカー、フラスコ、シャーレ、冷却器製造開始。
1949 年 8月	多年の研究が実り「ハリオガラス」の溶融に成功。
1951 年 5月	東京都江東区白河に硝子溶融炉を設備。一貫作業の深川工場を新設。
1955 年 6月	新工場に業界初の硬質1級ガラス「ハリオガラス」用タンク炉完成。
1957 年11月	深川工場分離。柴田ハリオ硝子株式会社を設立。
	S7型サイフォン発売。
1961 年 9月	JIS表示許可工場（化学分析ガラス器具・ガラス管棒）認定。
1962 年 2月	ハリオビル落成。
5月	業界初の自動ガラス管成形機を設置。
1963 年12月	業界初の自動吹成形機を設置。
1964 年 4月	耐熱ガラス食器販売部門を分離独立、「ハリオ株式会社」（旧・ハリオ商事株式会社）を設立。
1965 年 4月	「フリーザーポットの一号型」発売。サイフォンとともに主力製品となる。
1968 年 1月	硬質1級「ハリオ-32ガラス」開発に成功、量産に入る。
4月	茨城県古河市諸川1371に土地27,000m²取得。古河工場建設準備に入る。
1969 年 4月	耐熱ガラス製保存容器初代「サイクルウェア 」発売。
1971 年 1月	古河工場完成。
3月	古河工場本格稼動、生産開始。
10月	創立50周年記念行事と併せ、古河工場落成披露。
1972 年12月	独自の技術により「直接通電式ガラス溶融炉」の開発に成功。同設備による本格生産に入る。
	＊1977 年2月/日本発明大賞受賞
	＊1983 年3月/科学技術庁長官賞受賞
1979 年 9月	「ハリオール」発売。
1980 年 8月	自動車用ヘッドレンズ分野に進出。
1983 年 6月	本社を東京都中央区日本橋に移転、資本金4,000万円に増資。
10月	古河工場に世界初のコンピュータ制御によるガラス製品の多種少量生産ラインを完成。本格生産に入る。
1985 年10月	古河工場を分離独立させ、「シバタグラス株式会社」を設立、資本金3億円。
1987 年 9月	ハリオ株式会社、資本金1億円に増資。
1988 年 1月	ガラスの急須「茶茶」発売。
1993 年 8月	中国・沈陽玻璃儀器廠へのプラント完成。ハリオ株式会社、発祥の地東京都江東区白河に移転。
1997 年 1月	資本金4億円に増資。
1999 年 4月	ハリオ株式会社、シバタグラス株式会社と合併。「ハリオグラス株式会社」設立、資本金4億5千万円に増資。
9月	ハリオロジテム（ハリオ物流センター）設立。
2000 年12月	古河工場、ISO9001 認定工場となる。
	創業80周年記念事業の一環として、本社を東京都中央区日本橋富沢町9-3に移転。
2001 年 1月	ガラスの急須「茶茶急須」発売。
11月	古河工場、ISO14001 認定工場となる。
2003 年 2月	古河工場、OHSAS18001 認定工場となる。
7月	日本橋本社ビル登録有形文化財として文化庁より「貴重な国民的財産」に認定される。(登録番号13-0148)
11月	世界初、ガラスのバイオリンの製作に成功。
2004 年11月	ガラスのチェロ・ビオラ製作。
2005 年10月	「V60 透過ドリッパー」発売。
2006 年 4月	ハリオテック株式会社（旧シバソン）設立。
10月	ハリオ物流センター　新社屋完成。
11月	世界最大、ガラスの琴の製作に成功。

ヒロムブランド
耐熱トースター

S7型サイフォン

フリーザー/1FP

初代サイクルウェア

ハリオール

茶茶

茶茶急須

V60 透過ドリッパー